

あした

## 明日もしあわせ通信 (第50号) 令和2年8月号



### 冬の薔薇立ち向かうこと恐れずに

その少年は、2001年5月に944gの未熟児で生まれました。奇跡的に命は助かったものの、その小ささから小学校でいじめに遭い、不登校の日々が続きました。彼の心を救ったのは5歳から始めた俳句でした。2013年に『ランドセル俳人の五・七・五～いじめられ行きたし行けぬ春の雨』を出版。大きな話題を集めました。小林凜君です。

その人は、1911年10月に生まれました。母の命をある医師が救ってくれたことから医学の道を志し、聖路加国際病院の内科医となりました。95年の「地下鉄サリン事件」では院長として病院を開放。通常業務をすべて停止し被害者640名の治療に当たりました。そして、98歳から俳句を始めたのです。「いのちの授業」で有名な日野原重明氏です。

二人の年齢差は90歳。99年、99歳の日野原氏の新聞のコラムをきっかけに交流が始まります。そして、2014年9月に凜君の新作と二人の往復書簡が『冬の薔薇立ち向かうこと恐れずに』と題して出版されました。

凜君へ。ひひ孫のような君と俳句で心を交わすなんて夢のようです。

日野原先生へ。百歳おめでとうございます。「百歳は僕の十倍天高し」

日野原先生へ。「百二歳師の笑み優し竹の秋」

凜君へ。若い凜君に出会うことによって百二歳の私でもまだまだ成長できるんだという元気をもらいました。非常に愉快ですね。

日野原先生は17年7月に105歳で亡くなりました。二人の交流の記録には、老若に関わらず、職業に関わらず、一人の人間として心に突き刺さるものがあります。(N.T)

### 適応指導教室「はばたき」～ 体験から育つ ～

はばたき教室では、午後から手話教室やスポーツ、ものづくりなどの体験活動を行っています。初めは何をするのも嫌がっていた子どもたちですが、現在は体験活動の時間を楽しみにしている子もいます。

今回は手話教室とスポーツタイムの様子を紹介します。



(阿部先生から学ぶ)

手話教室では、自己紹介や挨拶などの基本的な手話を学んでいます。手話を学習することで子どもたちは、テレビで流れる手話通訳にも興味を持ち始めています。手話を学ぶことを通じて、優しい心を持ち続ける大人になってほしいと願っています。

スポーツタイムでは、バドミントンやバレーボールを中心に活動を行っています。この時期の中学生の運動能力の成長には、目を見張るものがあります。昨年度まではバドミントンの練習でシャトルを相手に返すのが精一杯だった子どもが、練習を重ねるに従って強いスマッシュを打てるようになってきています。また、ラリーが何回も続く好試合も見られるようになりました。少人数の中で繰り返し練習している成果だと感じています。

このように体験活動で身に付けた力は、着実に自分の自信となってきています。はばたき教室で今後の自分を考え、一歩ずつ進んでいく人になってほしいと願っています。

はばたき教室連絡先(電話番号089-989-5022 直通の携帯080-2974-4581)

## チームワークの良い家族を目指そう！ ～ファミリーミーティングのすすめ～

先日、DV・虐待の研修がありました。講師自身が性虐待を受けた柳谷和美さん。

話しにくいネガティブな体験が心にどう影響するのか、わかりやすく伝えてくれました。その中で、何でも言い合える家族の力をアップさせるファミリーミーティングの紹介がありました。

- ① 用意するもの→記録ノート、筆記用具、好きな飲み物やおやつ
- ② リラックスできる音楽を小さく流す。
- ③ ルールの説明→否定、批判、お説教、ダメ出しは、一切しない。
- ④ テーマ(議題)を決める。例：居心地いい楽しい家、スマホやゲームの使用、休日どうする？
- ⑤ それぞれが、自由に意見を出す。「どうやったらイイと思う?」「どう考えたらイイと思う?」
- ⑥ 「使える!」と思う意見をそれぞれがピックアップ。(否定的な意見は出さない)
- ⑦ 意見のまとめ。全員が良い意味で「妥協」できるように。とりあえず一度試してみる!
- ⑧ 決めたことを家族が見える場所に貼って、実行。
- ⑨ 実行してみて、不具合が起きてきたら、誰からでもミーティングの開催希望を出す。それぞれを尊敬し合い、認め合うミーティング。その体験で感じた気持ちが大切です。(H・I)

### 《センター長のつぶやき》

#### みなさまの支えがあつての50号

今日7月7日は七夕。短冊に「熊本にもう雨がふりませんように」とあつた。愛媛でも警戒レベル4が出ている。みなさまご無事であられますように。

さらに7月7日はクールアース・デー。みんなが地球を想う日。天の川を見ながら家庭や職場において、地球環境の大切さを再確認する日。

50年前のこの日、私は東京都北区赤羽で夜を迎えた。4月に初めて親元を離れ、松山駅から宇高連絡船まで涙が止まらなかった時から3か月。赤羽で駅員さんにむりやり押し込まれ、池袋まで身動きできなかつた通勤ラッシュ。マヨネーズライスが当たり前の日々。お金がなくなれば10円だけ持って公衆電話へ。母の声を聴くと「かねかねかね」と3回言うと電話は切れた。翌日郵便為替でお金が届いた。7年間過ごした東京を後にして愛媛の教員となった。あれから50年、母の愛情がどれ一つ欠けても今の私の幸せはない。ただただ深謝。



子ども総合センターだより「明日もしあわせ通信」も今回で50回を数える。みなさまの支えがあつての50号。深謝。(DOIG)

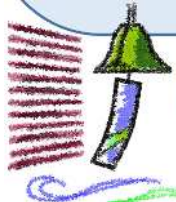


### 発達支援巡回相談

#### 絵本のある子育て

赤ちゃんへの最高の贈りものは、祝福と静けさです。赤ちゃんが目覚めている間は、テレビなど人工の音は消しましょう。赤ちゃんは静けさの中から聞こえてくる、お母さんの立ち働く音、風のざわめき、小鳥のさえずり、街のざわめき・・・に耳をそばだて、人と世界につながろうとしています。語りかけられ、子守り歌を歌ってもらい、お世話してもらうことで、ここは自分の居場所だと安心します。生後6か月くらいになると、赤ちゃんは言葉に興味を持ち始めます。乳幼児期からスマートフォンやテレビなどの電子メディアに長時間接していると、言葉の発達を遅らせ、意欲や集中力、思考力などの人としての力を弱めてしまいます。感性を働かせねば味わえない絵本と仲良しになるのはむしろかくなります。

『赤ちゃん絵本と静かな時間』より抜粋 (K)



伊予市子ども総合センター  
伊予市総合保健福祉センター2階  
伊予市尾崎3-1 ☎989-6226  
携帯 080-2974-4580